

第 11 章 図書・電子媒体等

第 11 章 図書・電子媒体等

【到達目標】

本学では、図書資料を含めた多種多様なメディアの収集・提供、学術情報提供のための環境整備、教学と連携した教育支援体制を強化することにより、学生及び教職員へのサービス向上を図ることを目指し、以下を到達目標とする。

- ①図書、電子ジャーナル等の資料のさらなる整備を図り、利用者へのガイダンスを含めた広報活動を展開し、有効活用を促進する。
- ②図書エリアの施設・設備面での点検を行い、利用者サービスの改善を図る。特に神田キャンパスの狭隘な閲覧スペースの有効活用を目指し、目的別のスペース確保を行う。
- ③情報発信としての総合メディアセンターホームページの充実、学内外とのネットワークの強化を図り、学習・研究支援のサポートを行い、サービスの向上・改善を目指す。
- ④総合メディアセンターを情報基盤の中核として位置づけ、情報の発信源として各地域との連携を強化し、学内はもとより卒業生を含めた一般の利用者が学習できる環境を整備し、地域開放を行う。

(11-1) 図書、図書館の整備（大学基礎データ表 41、表 42、表 43 参照）

【現状説明】

図書の蔵書数は、大学基礎データ表 41 のとおり、大学全体で約 32 万冊、雑誌は約 3,100 種類となっている。図書蔵書の内訳は、専門図書が約 57%、教養図書が約 43%である。

また、DVD 等の視聴覚資料は、3 キャンパスで約 3,500 タイトルを保有している。鳩山・千葉ニュータウンキャンパスでは、これらの資料を視聴するための AV 機器を設置したコーナーを設けているが、神田キャンパスでは閲覧スペースに余裕がないため、ポータブル機器及びヘッドホンの貸出を行い、机上で閲覧可能なように配慮している。

施設面では、大学基礎データ表 43 のとおり、鳩山・千葉ニュータウンキャンパスの閲覧席及びスペースは比較的余裕を持った構成になっているが、神田キャンパスは狭隘なスペースのため、閲覧座席数の確保が困難な状況であり収容定員の 7%程度となっている。

開館時間は、大学基礎データ表 42 のとおり、授業終了後も学習可能なように時間延長を実施している。さらに、夜間部を擁する神田キャンパスにおいては、より遅い 21 時 45 分までの時間延長を行っている。

【点検・評価】

図書・雑誌の蔵書は、専門図書を中心として配置している。しかし、近年は、情報分野の図書の新陳代謝が激しく、所謂マニュアル的な消耗品図書が増加している。書庫スペースにも限界があるため、それらについては、新版との入替が可能なように配慮し、書架を圧迫しないように調整を行っている。また、利用者からのリクエスト図書も積極的に購入している。

雑誌は、急速な電子化に対応し、電子ジャーナルを順次導入しているため、紙媒体の資料は減少し、その影響で製本雑誌も現状より少なくなることが予想されている。

閲覧座席は、以前は机の上に図書・ノート等が広げられるスペースがあればよかったが、最近ノートパソコンも持ち込まれるケースが多いため、一席当たりのスペースを広くすることが望まれている。比較的余裕がある鳩山・千葉ニュータウンキャンパスでも OA 対応机等の設置を検討する必要がある。

開館時間等については、特に試験時期に現状の時間よりさらなる延長及び休日開館に対する要望が挙げられているが、対応する体制が整備されていないため、実施には至っていない。

【改善方策】

神田キャンパスでは、狭隘な既存閲覧スペースの有効活用を図るために、就職・資格支援に関する図書を設置したグループ学習室の新設を行い、閲覧座席数の増加も図る。(到達目標②)

鳩山キャンパスでは、グループ学習コーナーを設置し、課題作成等の支援を行う。

千葉ニュータウンキャンパスでは、入館者数及び貸出冊数の増加を目指し、資源の有効活用を目指す。

これらを支援する体制及び利用者サービスの向上のため、運用体制のアウトソーシング化を行っている。今後、さらなる活用を図るため、ライブラリーアドバイザーを投入し、閲覧カウンター外での利用者への声掛け等のサービスを積極的に展開する。(到達目標①)

(11-2) 情報インフラ

【現状説明】

雑誌の急速な電子化に対応し、IEEE (Institute of Electrical and Electronics Engineers) 関連の電子ジャーナルの導入をいち早く行った。その後、利用頻度の多い雑誌のパッケージから順次電子ジャーナルへの切り替えを行い、現在は 23 種類約 2 万タイトルが利用可能となっている。また、文献検索ツールとして各種データベースも契約を行っている。電子ジャーナルに引き続き、電子ブックも普及し始めたため、東京電機大学出版局が出版した図書を含む和書や工学、数学、情報分野の洋書のパッケージも導入した。これらは、総合メディアセンター図書ホームページから本学の全ての学生・教職員が利用できる環境となっている。

図書資料のデータは、過去分も含め、全てデータベース化し、管理を行っている。また、国立情報学研究所提供の相互協力システムを利用し、他機関との連携も図っている。

3 キャンパスとも図書閲覧室内で無線 LAN 若しくは情報コンセントが使える環境を整備し、個人のパソコンでも電子化された資料の利用や情報検索を可能としている。

【点検・評価】

電子ジャーナルを導入したタイトルについては、順次紙媒体の冊子体を廃止し、予算面での二重投資を行わないように配慮している。

近年、利用者からは、バックファイルへのアクセスの要望が多くなってきている。また、電子ジャーナルのアクセス方法や閲覧可能な期間が不明である、等の質問が多く寄せられ、利用促進の広報活動が不足していることは否めない。導入した電子ジャーナルへのアクセス方法及び検索が体系的に整備されていないため、利用者が戸惑うことが多いのが現状である。

また、パソコンを利用しながら学習する利用者が増加しているため、情報コンセント付きの閲覧室や無線 LAN の利用率はかなり高くなっている。

外部利用者に対して積極的に開放は行っていないが、目録データベース等を検索し、他機関での所蔵が無いあるいは少ない資料については、閲覧及び複写のサービスを提供している。

【改善方策】

図書費とのバランスを考慮しながらバックファイルを購入し、電子ジャーナルの充実を図る。また、リンクリゾルバ等のツールの整備も視野にいれながら検討を行い、利用者サービスの向上を実現する。(到達目標①)

電子化された資源の有効活用を目指し、文献検索方法等のガイダンスを実施する。これは、遠隔講義システムを利用し、3 キャンパス同時開講で行い、大学全体の利用者のスキルアップを目指す。(到達目標③)

さらに、ホームページの充実を図り、広報活動を積極的に行う。(到達目標④)

